

長崎市手をつなぐ育成会「長崎よかよか隊」学習案内

知的障害・発達障害理解のための疑似体験

長崎市手をつなぐ育成会は昭和34年に創設された、主に知的障害のある子を持つ親の会です。現在は社会福祉法人として市内で複数の障害福祉サービス事業を運営しています。また啓発事業部では平成30年にキャラバン隊「長崎よかよか隊」を結成し、知的障害・発達障害の疑似体験を通じて障害のある人の生きづらさや障害特性について知ってもらおう活動をしています。

①疑似体験プログラム

小学生向けプログラム

- ☆『苦手なこと教えて』…苦手なこと・得意なことをインタビューしながら、誰にも苦手なこと得意なことがあることを知り、みんなそんなに変わらないということ意識する。
- ☆『きみはどっち』…ある状況で自分ならどちらの声掛けをするか二択で問いかけ、さらに自分ならどちらの声掛けをしてほしいか考えてもらうことで優しい声掛けについて考える。
- ☆『困っているのは誰?』…人を困らせているように見える人が、実は本人自身も困っているということ教える。
- ☆『ゲナゲナ』…言われていることが分からない、伝えたいことが伝わらない体験。
- ☆『Aくんのいちにち』…知的障害のあるA君が一日の中で感じる気持ちや生きづらさを知ってもらうストーリー。

中学生向けプログラム（通常版をアレンジしたものを使用）

- ☆『ゲナ帝国へようこそ』…「ゲナゲナ」としか言わないゲナ星人と遭遇。意思疎通の手段を考える。
- ☆『絵に描いてみよう』…人に伝わりやすくするための工夫を考える。
- ☆『分かってほしい知的障害・発達障害』…知的障害・発達障害についての説明。
- ☆『シングルフォーカス』…興味のあるものにしか目がいかず周りが見えない体験。
- ☆『指使い体験』…自分の思い通りに指先が動かない体験やどんな声掛けがいいかを考える体験。
- ☆『感覚過敏と低反応』…発達障害の人に多く見られる感覚についての問題を体験してもらう。
- ☆『Aくんのいちにち』…いくつもの生きづらさを抱えているA君の一日を追うストーリー。
- ☆『親の話』…親の立場から障害のある子の子育てや我が子に対する思いを知ってもらう。

②時間と人数

いただける時間に合わせてプログラムを決めます。授業一コマから対応します。

人数はクラス単位、学年単位、低学年、高学年、全校などご要望に応じて対応させていただきます。

③スタッフの人数

学校の人数に関係なく3名前後で対応します。

④必要な機材

スクリーン、パソコン、プロジェクター、マイクなどをご準備いただくと助かります。

ない場合はご相談ください。

⑤お申し込みの際の留意点

- ・実施日の**2か月前**までにはご連絡ください。
- ・電話などで事前打ち合わせをさせていただきます。
- ・交通費・謝金については特に規定はありませんが、交通費をいただくと助かります。
- ・学習支援依頼については、手をつなぐ育成会のHP「**長崎よかよか隊**」の**ページからの申し込み**又は「**ふくし学習支援依頼書**」を下記まで**FAX**にてお送りください。

【問い合わせ先】

社会福祉法人 長崎市手をつなぐ育成会 啓発事業部（担当：吉井・上田）

TEL：095-845-5677 FAX：095-841-9778

Mail：timecare@nagasaki-shi-ikuseikai.jp

ホームページ：<https://www.nagasaki-shi-ikuseikai.jp>

右のQRコードからホームページに
アクセスできます



参考資料

●これまでに体験して下さった方

- ・小学生・中学生・大学生・専門学校生・学校の先生・民生委員・教育委員会・障害福祉サービス職員
- ・介護保険サービス職員、行政関係者、保護者、一般市民など

●中学校、小学校でいただいた感想より

- 知的障害のある人に出会ったら、優しく手を貸し時には見守っていかうかなと思いました。障害のある人に対しての意識が最初何も学習していないときと変わりました。（中学生）
- 私たちが普段1日過ごしていることを、障害のある人たちはその日1日過ごすだけでも大変なんだなと思いました。（中学生）
- 障害のある人も考え方は変わらず、ただ行動が違うだけだと思いました。ちゃんとした意味があって行動しているんだと分かりました。（中学生）
- 知的障害のある人について改めて知ることができました。体験があったので分かりやすかったです。（中学生）
- 障害があっても普通の人と同じような感情や言葉があることを知れてよかったです。（中学生）
- おもしろかった。（小1）
- おもしろかった。これからは3つの約束※を忘れません。（小2）
※（体験の中でした①友だちのいいところを見つける②自分が言われていやなことは言わない③相手の立場になって考えるという約束）
- 今度から自分が言われていやなことは言わないようにしようと思いました。（小3）
- もし困っている人がいたら助けてあげたいなと思った。（小4）
- しょうがいのある人は相手に伝えようとしてもうまく言えなくて困っていることを知りました。（小5）
- 「困る人」と考えるのではなく「何か困っているのかな」と考えることが大切だと思った。（小6）